

防災のための図記号に関する  
調査検討委員会報告書

平成 17 年 3 月

総務省消防庁

防災のための図記号に関する調査検討委員会

## はじめに

---

2004年12月26日のスマトラ沖地震・インド洋大津波は、死者20万人以上という大災害となった。

もとより、津波に対する対策としては、ひとりひとりがいち早く津波の危険を察知して安全な避難場所へ避難する以外にないが、今回の場合、被災した人々にそうした知識がなかったこと、さらに事前に津波を予測・観測し、それを知らせるシステムがなかったことが、大被害に繋がったものである。

我が国の場合、過去多くの津波被害を経験していることから、一般的には、他の国々の国民より、津波に対する知識は高いと思われる。しかし、仕事や観光で行く先々の土地が、津波の危険があるかどうかを察知することは難しいし、常にそのことを気にすることさえも、普通ではありえない。

したがって、津波の危険を伝える標識、いざというときの避難場所の標識等を設置することは、そうした心の油断に対して注意を喚起する極めて有効な方法といえ、津波防災に関して推進すべき対策の第一に挙げられよう。実際、我が国では過去の教訓から、危険な海岸線を持つ多くの自治体が、そうした津波標識の設置に努力をしている。

しかし、これまで、統一された標識の図記号（ピクトグラム）がなかったため、各自治体において独自の図記号が使われていた。

特定の記号に対して固有の反応が喚起される人間の精神反応から見れば、このような各地でばらばらの記号は、危機感を喚起するきっかけとして常に有効に機能するかについて疑問が残る。今回、総務省消防庁の主導により始められた、全国標準の津波図記号の提案は、こうした問題意識から始まったが、委員会発足直後に発生したスマトラ沖地震津波は、この作業が一刻の猶予もないことを宣告するものであるかのように思われた。

津波の危険を示す図記号については、委員会発足以前から、多くの提案があった。ここに提案する案は、議論を重ねての委員の合意ではあるが、必ずしも完全であるとはいえない。津波の大きさ・形状、被災地海岸の特性など、1枚の図記号では表せない要素があまりにも多いからである。

にもかかわらず、こうした統一図記号を規定することは、津波に対して、条件反射的危機感を醸成する意味でも有効な対策であると信じている。

また、現行のJIS規格となっている図記号の活用は、より円滑な避難、誘導に貢献する手段になると思われる。大方のご賛同を期待したい。

平成17年3月

防災のための図記号に関する調査検討委員会  
委員長 梶 秀樹

# 防災のための図記号に関する調査検討委員会 構成

---

(平成 17 年 3 月現在委員 敬称略)

## 防災のための図記号に関する調査検討委員会

### 【学識】

委員長	梶 秀樹	慶應義塾大学総合政策学部	教授
委員	林 春男	京都大学防災研究所	教授
	今村 文彦	東北大学大学院工学研究科	教授
	加藤 久明	日本デザイン学会	名誉会員
	児山 啓一	株式会社アイ・デザイン	代表取締役
	秋山 宣暉	(社) 日本保安用品協会	技術担当主管

### 【行政機関】

委員	上総 周平	内閣府参事官 (地震・火山対策担当)
	下河内 司	総務省消防庁 防災課長
	西出 則武	気象庁 地震火山部管理課長
	中村 眞	国土交通省 河川局防災課長
	内村 重昭	国土交通省 湾岸局海岸・防災課長
	服巻 正治	警察庁 警備局警備課災害対策官
	田中 和郎	宮城県 総務部危機対策課長
	楠瀬 義広	高知県 総務部危機管理課長

事務局	植田 達志	総務省消防庁 防災課震災対策専門官
	羽田 和雄	総務省消防庁 防災課震災対策係長
	森高 邦博	総務省消防庁 防災課
	中西 賢一	総務省消防庁 防災課
	萩野 仁美	株式会社アイ・デザイン チーフデザイナー

## ■ 津波注意



## ■ 津波避難場所



## ■ 津波避難ビル

これらの図記号の色彩は、  
JIS Z 9101（安全色及び安全標識）で規定する  
次のマンセル値を参照してください。  
安全色 緑：10G 4/10、黄：2.5Y 8/14  
対比色 黒：N1、白：N9.5



# 目 次

---

## 本編

### 第 1 章 調査検討の目的等

1	津波避難標識の策定	2
2	案内用図記号の活用	2
3	防災関係の図記号に関する過去の経緯	4
4	調査検討委員会の開催	5

### 第 2 章 津波関連標識の現状と分析

1	津波関連標識の現状	6
2	津波避難標識に求められる役割とデザイン	12
3	津波避難計画の概念	14

### 第 3 章 津波避難標識の図記号検討

1	J I S 図記号との関係及び体系的な整理	15
2	候補図形と図材の選択	16
3	図記号原案の作成	16
4	理解度、視認性調査の実施	20
5	I S O 提案に伴う原案の調整	28
6	追加調査の実施	29
7	総合評価	30
8	津波避難図記号の決定	31
9	津波避難図記号の標準化のための提案	32

### 第 4 章 防災のための図記号の利用

1	津波避難標識の設置と利用方法	34
2	案内用図記号の活用	37

## 資料編

1	図記号検討の経緯	38
2	図記号検討案一覧	39
3	理解度、視認性調査回答者属性（ウェブ・アンケート）	40
4	会議開催記録	45